

# 論説

## マイナカード問題

マイナンバーカードを巡り、国民が最も不安を覚えるのは健康保険証機能を持たせたマイナ保険証へ来年秋に一本化（現行保険証が廃止になる）ことだ。

誤差認定などのトラブルが相次いだ」とから、国は開会中にもかかわらず行われた衆院特別委員会の審査では、認知症高齢者の対象に暗証番号などもマイナカードの申請や交付を認めの方針が示された。一方でマイナ保険証を持たない人が保険診療を受けるための資格確認証を、本人からの

申請がなくても発行する場合があると説明。これではむづかしくはないのか、

少くないはずだ。暗証番号なしのマイナカルドについて、高齢者施設などから秘属性の高い暗

申請としてシンプルなのは間違いないだろう。確かに、日本の行政の手をかしげたくない回数も

ジタル化が後れを取っていることは、新型コロナウイルス対応で如実に明らかに

は国民の感覚に近いといえるだけだ。（これに対して政

府側は「マイナ保険証が行なった。政府は受診履歴などから秘属性の高い暗記が難しくなる」と説明したが納得できる説明ではなく、国民をひどく巻いただけとの印象が拭えない。

## 場当たり対応でいいのか

誤差認定などを理由とする問題を管理する立派な議論の声が出ていたからと

い。それした声が上がるにつれて、もっと前から想定してこなかったのかと

閑余出審査で野党は「テ

シタル化は喫緊の課題」と思われるを得ない。（ハ）」

現行保険証への一本化は「国民の不安を払拭する措置完了」が大前提」と柔軟姿勢を見せたものの、関係閣僚は場当たりの一方で、かたくなに姿勢に終始した。（ハ）は首

務める河野太郎デジタル相

の姿勢に終始した。（ハ）は首相の指導力が問われる。参院での次回審査には当然自身が出席すべきだ。

題字・川端  
（福井高志）  
カット・神内  
八重